

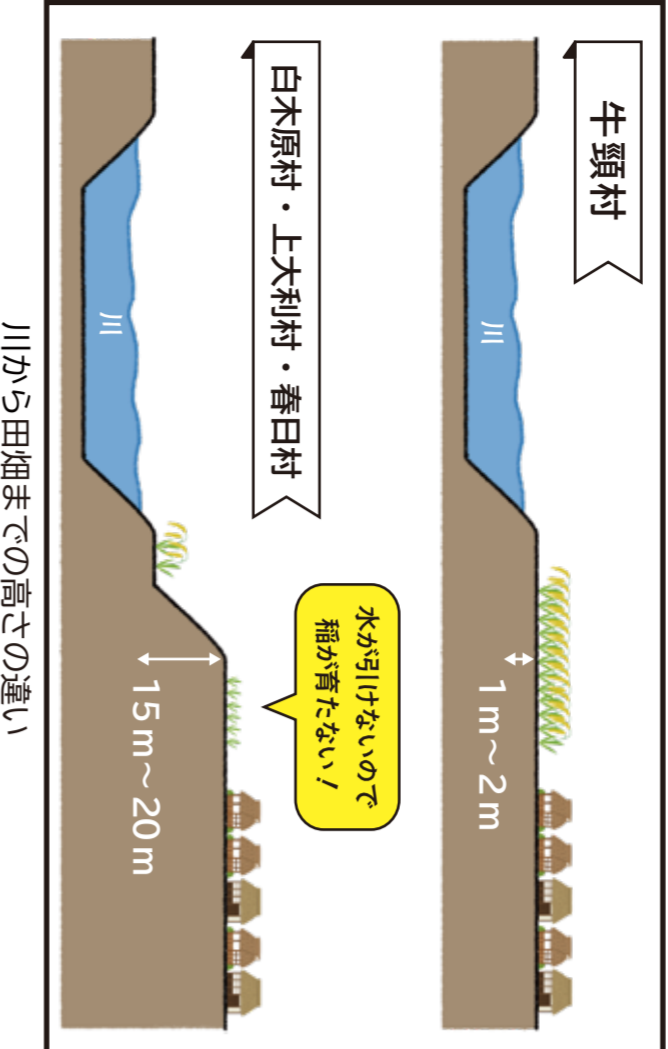
## 01：牛頸用水路とは？

大野城市には、牛頸の北田井堰から上大利の三兼池を経て春日市の池頭地まで4か所のトンネル(全長約1.8km)を含む、全長約2.8kmの用水路があります。

## 02：牛頸用水路はなぜつくられたのか

江戸時代、白木原村・上大利村・春日村の人々の多くは農民で、仕事の中心は米作りでした。人々は自分たちで作った米を税金として藩に納めていました。

しかし、白木原村・上大利村・春日村の近くを流れる川は田畑より低い位置にあったため、田畑に水を引くことができませんでした。そのため、飢え死にする人が出るほど生活が困難で、米が十分に収穫できなかったため、税を払うのに非常に苦労しました。



発行：大野城市

## 牛頸用水路と溜井之碑

大野城市の文化財 第55集



### 日の浦池

大野城市南大利2丁目、県道31号線沿いにある池です。池の近くには「日の浦池公園」があります。【アクセス】西鉄下大利駅下車、西鉄バス22番【西鉄二日市駅行】に乗車「小水城」下車、徒歩3分。JR大野城駅から、西鉄バス20番【月の浦営業所行】に乗車「小水城」下車、徒歩3分。

### 三兼池

牛頸用水路が通る池の中で1番大きな池で、ほとりには「溜井之碑」が建立されています。また池の近くに「三兼池公園」があり、グラウンドや遊歩道、牛頸須恵器窯跡ウインドの一つである梅頭窯跡の覆屋があります。【アクセス】西鉄下大利駅から、西鉄バス22番【西鉄二日市駅行】に乗車「日の浦」下車、徒歩4分。

## 03：牛頸用水路を作った人々

1845年頃(弘化年間1844~1848)に御堂郡の大庄屋高原美徳と白木原村の庄屋森山庄平が掘削を開始し、牛頸の北田井堰から日の浦池まで用水路を掘りました。途中、藩の改革により中断されましたが、明治10年(1877)1月に森山庄平の息子である森山庄太によって工事が再開されました。まず、30年くらい前に掘っていた北田井堰から日の浦池までの用水路の泥を取り除きました。牛頸の北田井堰から上大利の三兼池までの高低差は6mで、池と池をトンネルや溝でつなぎ、わずかな高低差を利用して水を三兼池へと流しました。

### 牛頸用水路ができるまで

1845年頃	森山庄太の父である白木原村の庄屋森山庄平と御堂郡の大庄屋高原美徳が牛頸用水路を掘り始める。
1845年	條約令で中止する。
1875年頃	森山庄太は村人たちと話し合い、用水路作りの計画を立て何度も県にお願いに行く。
1877年 1月	県から工事の許可が出る。用水路を通る村と話し合いを何度も繰り返し、水米を支払うことで許可を得た。
1877年 2月	用水路の工事を開始する。
4月	用水路完成。
1894年 7月4日	森山庄太が亡くなる。
1895年 3月	三兼用水路の記念碑建立
1897年 9月	森山庄太の墓碑建立

## 04：牛頸用水路の工事

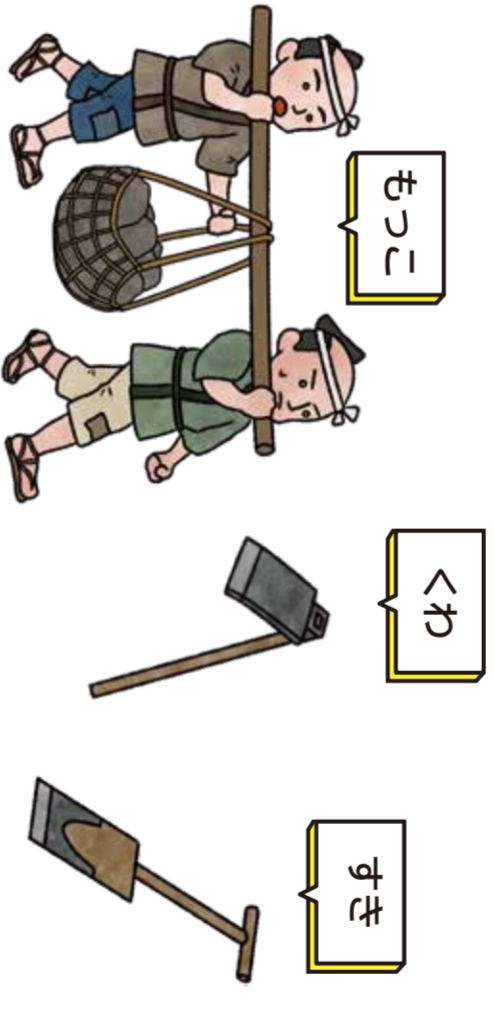
用水路を作るためには、水が自然と高い場所から低い場所へ流れるように高低差をつける必要があります。そこで、夜に提灯の明かりを頼りに土地の高低差を測り、用水路の位置を決めていきました。

また、用水路は池と池を結ぶために4か所でトンネルが掘られています。トンネルは「たぬきばり」という、人が中に入り、掘った土を外へかき出す方法で掘られました。

トンネルの高さはおおよそ130cmです。当時の大人の平均身長は男性が155cm、女性が145cmとされており、しゃがんで作業するのにちょうど良い高さであったと考えられています。

### 05：牛頸用水路の工事に使われた道具

現在のように大型の機械などは無かったため、工事は人力で行いました。土を掘るのには「くわ」や「すき」という土を掘り起こす農具を使い、土や石を運ぶのには「もっこ」という縄や竹、藁を編んで作られた運搬用具を使いました。



## 06：溜井之碑とは？

上大利の三兼池に建つ石碑です。発起人の森山庄太のことや、牛頸用水路の工事に関する記録について刻まれています。

牛頸用水路の工事費は210円(現在のお金に換算すると500万円以上)かかり、その約半分である110円(現在のお金で260万円以上)を森山庄太が、残りを白木原村と春日村が各40円(現在のお金で96万円以上)上大利村が20円(現在のお金で48万円以上)負担したこと、また3つの村と周辺の村々の人々を合わせて、のべ1万5千人の人々がこの用水路の工事に関わっていたことなどが記録されています。そして、用水路の完成を見ることなく亡くなった森山庄太の偉業を忘れることのないように、この石碑を明治28年(1895)3月に建立したことも刻まれています。

**POINT**

溜井之碑のある三兼池の貯水可能量は9万6千トン(小学校のプール約23万倍)だったと言われています。また水は牛頸村と協議し、農閑期の11月から3月の間に取水され、三兼池や途中の池にためました。そして、牛頸村には「水米」という通水料を支払っていました。

### 北田井堰

牛頸用水路の出発点です。牛頸川の流れをせき止めて、用水路へ水を流しています。【アクセス】西鉄下大利駅から、西鉄バス23番【月の浦営業所行】に乗車「平野中学校」下車、徒歩2分。JR大野城駅から、西鉄バス20番【月の浦営業所行】に乗車「平野ハイッ入口」下車、徒歩9分。

### イガイムタタ池

イガイムタタとは、い草の繁った湿地の意味があるようです。牟田は湿地または泥沼などの意味です。イガイムタタ池には「底なし沼の人柱」の伝説があります。【アクセス】西鉄下大利駅から、西鉄バス21番【平野ハイッ】に乗車「大野南小学校前」下車、徒歩9分。

## 牛頸用水路周辺の文化財

**平野神社**

平野神社は大野城市内で最も古い神社です。伝承では正暦年間(990~995)に創建されたとされています。【アクセス】西鉄下大利駅から、西鉄バス21番【月の浦営業所行】に乗車「牛頸」下車徒歩3分。

**天狗の鞍掛けの松**

牛頸に残る伝説「天狗の鞍掛けの松」をもとに、平野小学校の発案で、記念碑を建て4代目の松を植えています。【アクセス】西鉄下大利駅から、西鉄バス22番【西鉄二日市駅行】に乗車「南ヶ丘一丁目」下車徒歩8分。

**須賀頭窯跡**

上大利5丁目の三の池公園内に保存されています。国の史跡牛頸須賀頭窯跡の一部にあたり、6世紀末から7世紀初めに須賀器を焼いた窯跡です。【アクセス】西鉄下大利駅から、西鉄バス21番【月の浦営業所行】に乗車「日の浦」下車徒歩10分。

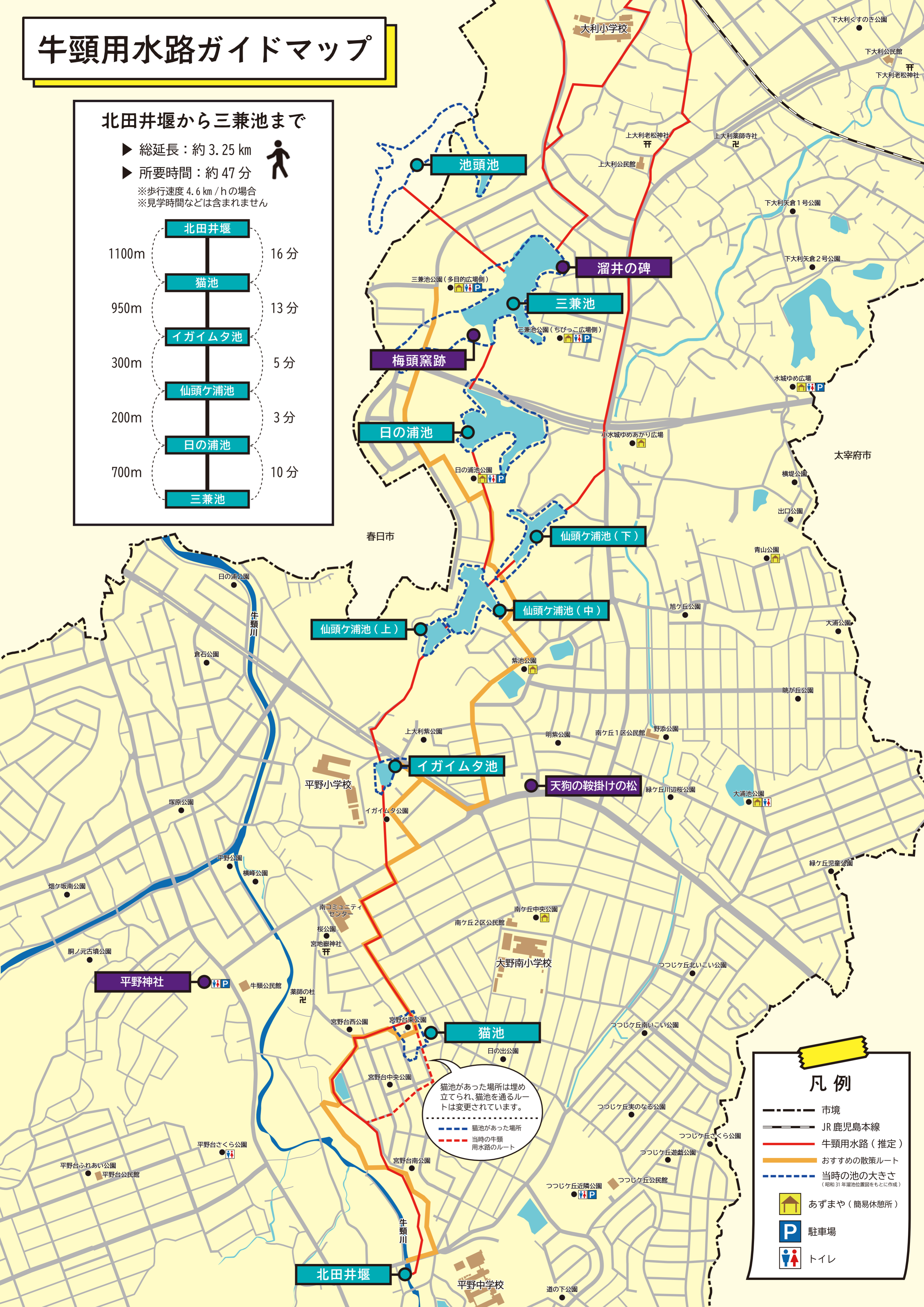
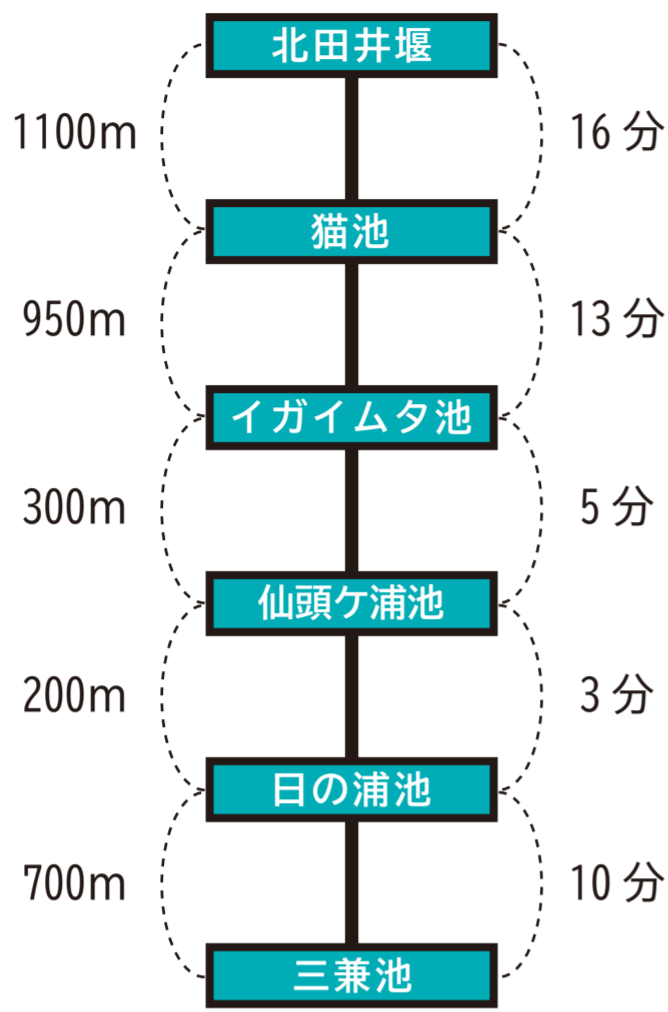
# 牛頸用水路ガイドマップ

## 北田井堰から三兼池まで

▶ 総延長：約 3.25 km

▶ 所要時間：約 47 分

※歩行速度 4.6 km/h の場合  
※見学時間などは含まれません



猫池があった場所は埋め立てられ、猫池を通るルートは変更されています。

- 猫池があった場所
- 当時の牛頸用水路のルート

### 凡例

- 市境
- JR 鹿児島本線
- 牛頸用水路（推定）
- おすすめの散策ルート
- 当時の池の大きさ（昭和31年溜池位置図をもとに作成）
- あずまや（簡易休憩所）
- 駐車場
- トイレ